

第20回対話の場について

第20回

- 日時：2024年10月3日（木）18:30～
- 場所：漁村センター
- 出席者：委員15名、ファシリテーター6名、神恵内村役場、資源エネルギー庁、北海道経済産業局、北海道庁、NUMO

<今回の対話の場の内容>

- ◇ 運営委員会の開催結果報告
- ◇ 文献調査の進捗と概要調査のあらまし
- ◇ 2つのテーマによるテーブルワーク

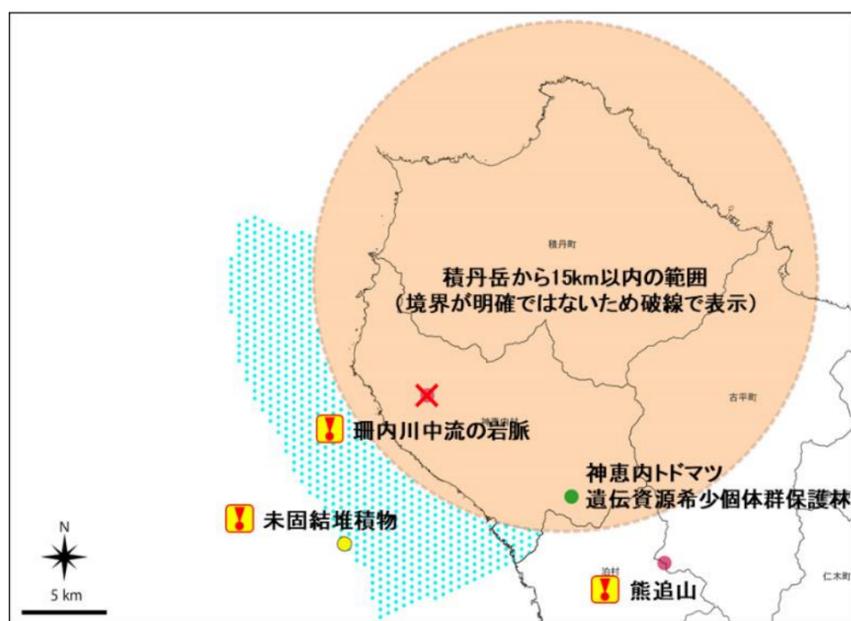
*「文献調査と概要調査」「まちづくり（社会基盤整備、観光等の産業振興）」

◆ 運営委員会(8/26)の開催結果報告

- 第20回対話の場で「文献調査の進捗状況と概要調査のあらまし」の説明を行うことについて了承いただきました。

◆ 文献調査の進捗と概要調査のあらまし

- 文献調査の結果については、これまでのご説明と変更はありません。
- 下図の水色のドット部分[■]が概要調査地区の候補となります。



【凡例】



報告書（案）の図に、概要調査地区の候補のおおよその範囲を水色のドットで加筆して示しています
海域は海岸線から15km以内にある大陸棚の範囲を示しています
※海域には自治体の行政区域が存在しないので、ここでは陸域の行政区域を単純に海側に延長して示しています



概要調査時に留意すべき事項

- 噴火に関する事項（珊内川中流の岩脈、熊追山）
- 第四紀の未固結堆積物に関する事項

<避ける場所>



噴火（珊内川中流の岩脈）



噴火（「積丹岳」の活動中心が明確ではなく15kmの境界が明確ではないため破線で表示）



経済社会的観点からの検討（土地利用が原則許可されない地域）

文献調査報告書（案）に対する国の審議会の主な指摘事項と対応

◇国の審議会で主に指摘されたこと ※審議会による審議は8月1日に終了し、NUMOで報告書を取りまとめ中です

- 概要調査の考え方を説明するべき
- 概要調査段階に進んだ場合の留意事項について、概要調査でどう調査・評価するのか示すべき

◇指摘を受けて修正したこと

概要調査の基本的な考え方の説明を追加しました。

- 概要調査の基本的な考え方に従って、留意事項の調査・評価について説明を追加
- 多くの区域に影響が及ぶ火山に関する留意事項（熊追山など）は、早い段階で確認する必要があることを追記

概要調査とは

➤ 概要調査では現地調査を実施し、以下の要件を満たす地層を選んでいきます。

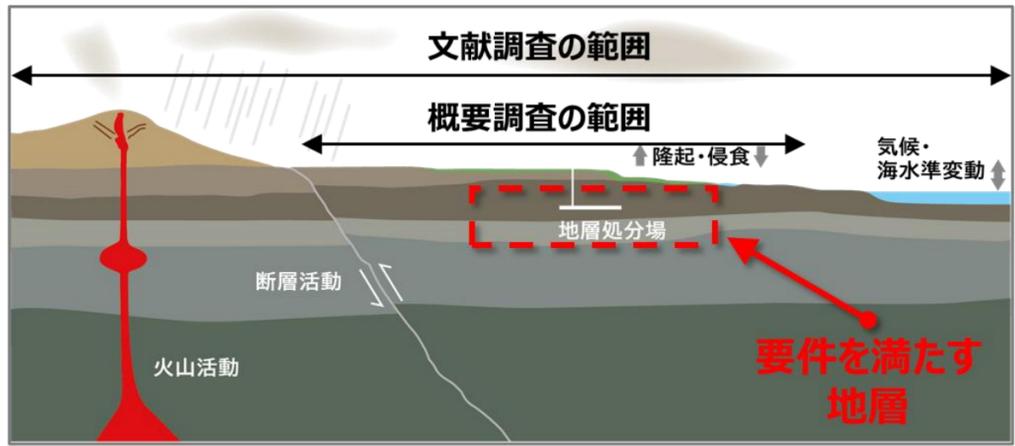


- ✓ 地層の著しい変動（活断層や火山など）がないか
- ✓ 坑道の掘削への支障がないか
- ✓ 地下水流などの悪影響がないか

※ 概要調査で調べること

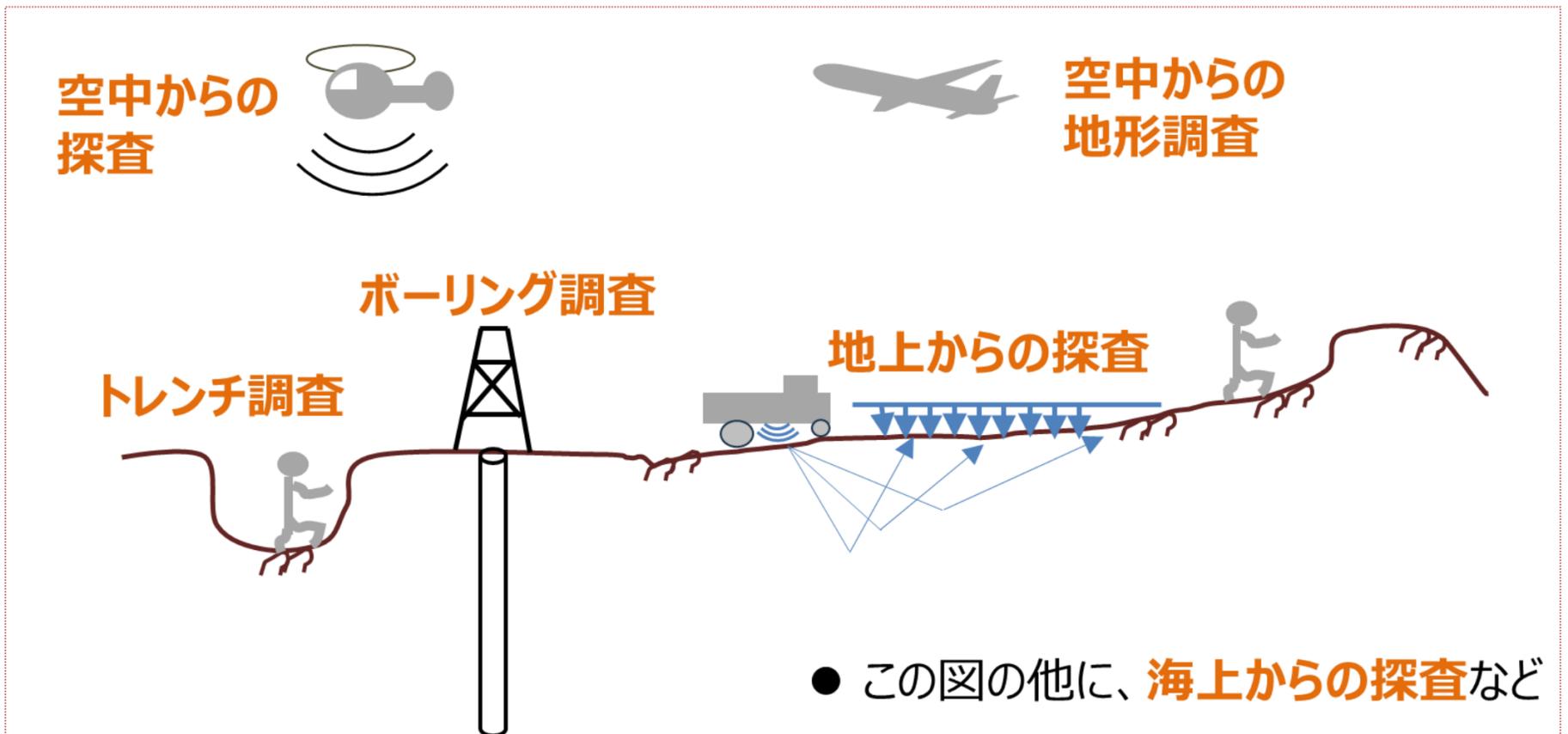
- 「地層の著しい変動」の要件に関して、断層、火山、隆起・侵食などを調べます
- 「坑道の掘削への支障」、「地下水流などの悪影響」の要件に関して、岩盤や地下水等、地下の状況を調べます
- いずれも現地調査により、文献調査より詳しく調べていきます

＜概要調査で選んでいく地層のイメージ＞



一般的な現地調査の方法

➤ 空中や地上からの探査や地表踏査などにより比較的広い範囲を概括的に把握し、次に比較的狭い範囲に絞ってボーリング調査やトレンチ調査などにより詳しく調査、といった考え方で調査します。



調査の例（地表踏査）

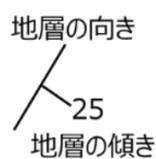
● 地表に現れた地層、岩盤を直接調べます

➤ 現地で地形や年代などを把握

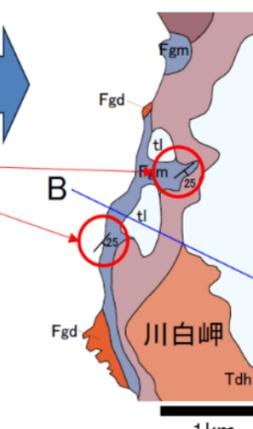


地層が傾いていることがあります

➤ 地層の向きや傾きを調べます（地図上に書き込み地質図の基とします）



➤ 岩盤の性状などを観察します



北海道古宇郡神恵内村文献調査報告書(案)、地形・地質・地質構造に関する説明書の付図1（神恵内村および周辺地域陸域地質図）から抜粋し、スケールを加筆

露頭（＝岩盤が表面の土などから出ている）のさまざまな場所



道路の切り割り：林道の例



工事現場・採石場：工事現場の例



海岸：岩石海岸の例



山：尾根の露頭の例

試料を採取して分析

- 火山から噴出した岩石
- 露頭の岩石、鉱物、化石 など

評価すべき項目と調査方法の組み合わせの例（火山の場合）

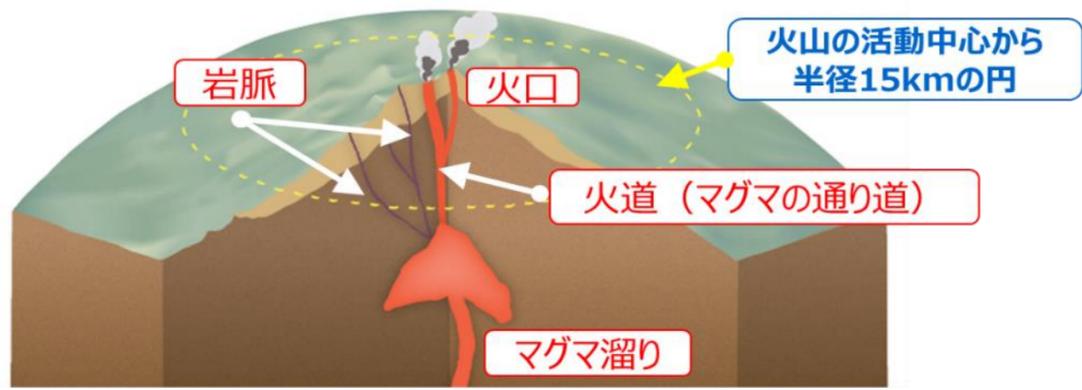
- 地形調査や地表踏査から火口の位置、活動時期などを、空中、地上からの探査やボーリング調査で、地下の状況を把握します

地表の調査

- 地形調査
- 地表踏査

地下の調査

- 物理探査
- ボーリング調査



評価項目が主に期待する方法を○で示す		火口位置など	活動時期など	地下の状況（マグマの分布など）	
				深度：数百～1km程度	深度：1km程度～
地形調査	空中、現地	○			
地表踏査	岩石の調査	○	○		
物理探査	空中	○		○	
	地上	○			○
ボーリング調査	孔内			○地温、地下水の酸性度など	

◆ テーブルワークでの意見や質問

★多くの意見や質問から一部を紹介！



<文献調査と概要調査>

- Q 対話の場はいつ終わるのか。
A 対話の場の終了時期については未定。
- Q 概要調査はどのような順番で実施されるのか。
A 空中からの調査→地上地表踏査→トレンチ・ボーリング調査の順番の予定。
- Q 調査を途中で辞めた場合は、交付金は返さなければならないのか。
A 法律上、返すことにはなっていない。
- Q 次の調査への移行について村長と知事の意見が異なる場合は、どうするのか。
A 次の調査への移行については、法律上それぞれの意見を尊重することになっており、どちらか一方が反対であった場合は、次に進まない。

<まちづくり（基盤整備）>

- 神恵内村の除雪は完璧であると感じている。
- 当丸峠で電波が通るようにしてほしい。
- 村には救急車がなく、緊急時が心配なので救急車を導入してほしい。
- イベント広場を拡張して、養殖体験の場や水産学校などを併せた複合施設を建設したらどうか。

<まちづくり（観光・産業振興）>

- 旅行村でフェスなどを開いて、人が集まるようにしたい。
- シングルファザーの支援など、他とは違う政策を実施したらどうか。
- 観光で訪れた人が居続けてくれる、まちづくりもしていかなければならない。

配付資料や映像は、NUMOホームページでご覧いただけます。

NUMO 
<https://www.numo.or.jp/>



当日の資料などについては、神恵内交流センターにおいても配布しております。より詳しい内容にご関心のある方は、神恵内交流センターまでお気軽にお問合せください。 電話番号:0135-67-7711(代表)